
ポ・モン「ヒロシの旅立ち」

act-i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポ・モン「ヒロシの旅立ち」

【Nコード】

N6713F

【作者名】

act-i

【あらすじ】

ジサツタウンに引っ越してきたヒロシは旅立ちを決意するが…

第一章「旅立ち」

1章「旅立ち」

俺の名前は「ヒロシ」。今度ジサツタウンに引つ越すことになったんだ！

その街では自殺が絶えないって聞くけど大丈夫！心配は要らないさ！

・ヒロシはジサツタウンに着いた。

ヒロシ：「ここがジサツタウンか。母さんすごいね！」

母さん：「・・・」

ヒロシ：「母さんどうしたの？」

そういつてヒロシは後ろにいる母さんのほづを向いた。

首を吊つて死んでる・・・

ヒロシ：「早速かよ・・・この腐れババア」

お父さん：「母さんは昔からおかしかったからな。（笑）」

ヒロシ：「だね！（笑）」

ヒロシは何かジムリーダーってやつが居て、そいつに勝つと金もらえることを知った。

ヒロシ：「父さん、俺ジサツタウンにいる「マルキド博士」っていう博士に...って父さん...死んでる...」

ヒロシの父は包丁で自分の腹部を刺し死んでいた。

ヒロシ：「つち、ジジイもかよ。」

ヒロシはマルキド博士の家に向かった。

ヒロシ：「あれ？ドアが開かない。ポ・モンではあいてるのに...仕

方ない。」

ヒロシはバッグから針金とペンチと・・・を取り出してピ・キングを始めた。

ヒロシ：「まず・・・を・・・にして・・・を・・・にしたらできるな。」

（安全と保安のため詳細は記載できません。）

ガチャ。マルキド博士の家のドアが開いた。

ヒロシ：「博士。ポ・モン…死んでる…」

マルキド博士とその助手たちは全員薬物を飲んで死んでいた。

机の上にはモンスターボールが3個あった。

ボールにはそれぞれ付箋が貼られており一つには

「死に損ない」

二つ目には

「役立たず」

三つ目には

「食うだけ」

と書いてあった。

ヒロシ：「どれもいらねえ。」

ヒロシはボールは盗らず、博士の財布と女の助手のパンツだけを盗り家を出た。

ヒロシ：「しょうがねえ。自分で捕まえるしかないか。」

ヒロシは何も持たず草むらに入った。

すると見ず知らずのおっさんがヒロシを止めてこう言い放った。

おっさん：「おいおい、ポケモンも持たずに草むらにいくとはどういうことだ。」

ヒロシ：「しょうがねーだろ。マルキドがカスポ・モンしかなかったんだから。」

ヒロシ：「自分で捕まえるしかないだろ？」

おっさん：「分かったよ。それよりどうしてポ・モンがほしいんだい？」

ヒロシは自分の夢を目を瞑って話し始めた。

ヒロシ：「…ってことなのさ。」

ヒロシは話を終え、目を開けた。

ヒロシ：「死んでる…」

さっきまで相槌を打ってくれたおっさんが舌を噛み切って死んでいた。

ヒロシ：「邪魔も消えたし、草むら行くか。」

ヒロシは草むらに向かった。

．．．続く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6713f/>

ポ・モン「ヒロシの旅立ち」

2010年10月9日13時06分発行